

「授業についての満足度調査」について

本調査は、2017年度まで過去のデータを分析した結果、学生委員会や広報委員会が実施しているアンケート内容との重複を避ける調整を行った。さらに、学生の意見を的確に把握し活用できるように調査目的を明確化させた。2018年度から質問項目とその内容も大幅な刷新を図り再開に至っている。特に、教育目標に基づき、学生が各授業で身につけるべき能力(教育上の目的)や学習成果などが特筆すべき点として挙げられ、各学科の教育内容を尊重したものとなっている。

また、回答率の向上をめざし、各学科のFD委員が直接学生アンケートを実施した。

尚、アンケート実施後の各学科長のコメントは、従来通り実施している。

FD委員長

榊原 和子

—添付資料—

- ・ アンケート用紙(原文)
- ・ アンケート用紙(回答)学科別集計結果
- ・ アンケート用紙(回答)学科別集計結果に対する各学科長講評

保育学科

- ・ なわてジェンヌ、保育のソムリエの取り組みについて問う内容では、1年生より2年生で数値が高い結果が得られた
- ・ 身につけるべき能力についての設問項目においては、総じて1年生より2年生で数値が高い結果が得られた

ライフデザイン総合学科

- ・ 設問項目Ⅰで得られた結果において1年生、2年生で同様の傾向が見られることから、エリアの特色の分析が可能となった
- ・ 設問項目Ⅱにおいて、1年生より2年生で各質問の「そう思う」と「そう思わない」の数値が高い結果が得られた

両学科共通で確認される要素

- ・ 設問項目Ⅲにある授業や課題への積極性を問う内容については、両学科とも1年生より2年生の数値が高い結果が得られた
- ・ 設問項目Ⅳにある専門的知識の獲得、人間的な成長の実感を問う内容については、両学科とも1年生より2年生で高い結果が得られた

アンケート用紙(原文) 保育学科

短期大学 FD 委員会

授業についての満足度調査(2018年度)

回答欄の 0 を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。[可: ●、●/ 不可: ○、○、○]

I 保育学科に関する各項目について、お答え下さい。

①: そう思う ②: ややそう思う ③: どちらともいえない ④: あまりそう思わない ⑤: そう思わない

1	「なわてジェンヌ」を目指し、教養、マナー等を身につけようと熱心に取り組んだ	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2	「なわてジェンヌ」を目指した取り組みは、役立つことだと思う	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	保育技術を伸ばし、「保育のソムリエ」の称号を得るために熱心に取り組んだ	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4	「保育のソムリエ」の称号を得ることは、役立つことだと思う	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	保育の座学の講義は、役に立つと思う	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
6	保育の演習・実技は、役に立つと思う	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
7	保育所や幼稚園、施設などでの実習は役に立つと思う	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

II 保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について、お答え下さい。

①: そう思う ②: ややそう思う ③: どちらともいえない ④: あまりそう思わない ⑤: そう思わない

1	保育や幼児教育、福祉に関する知識を理解できた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2	保育における的確な実践力、判断力、コミュニケーション力を身につけることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	子どもの表現、遊びに関する技能や表現を身につけ、援助の方法を習得できた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4	社会状況に関心を持ち、それに応じた保育の向上に努めることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	保育の実践者としての自覚を持ち、人間的成長や向上に努めることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
6	保育の近接領域を学び、保育周辺の資格の習得に努めることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

III あなた自身の授業への取り組みについて、お答え下さい。

①: そう思う ②: ややそう思う ③: どちらともいえない ④: あまりそう思わない ⑤: そう思わない

1	授業には、欠席しないように心がけた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2	授業中の解らないことや不明な点について、積極的に質問した	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	授業中の居眠りや私語などはせず、授業に集中した	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4	授業中の勉強環境(進度、教室、板書、視聴覚教材など)について、積極的に発言した	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	授業の予習・復習および課題には、真剣に取り組んだ	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

IV 本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか、お答え下さい。

①: そう思う ②: ややそう思う ③: どちらともいえない ④: あまりそう思わない ⑤: そう思わない

1	報恩感謝の思いを持つことができましたか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2	教養や知性が身についたと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	何事にも自主的、積極的に取り組めるようになったと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4	専門的能力(資格を含む)が身についたと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身につけ、人間的にも成長できたと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)



アンケート用紙(原文) ライフデザイン総合学科

短期大学 FD 委員会

授業についての満足度調査 (2018 年度)

回答欄の 〇 を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。[可: ●, ● / 不可: ○, ○, ○]

I ライフデザイン総合学科のエリアについて、お答え下さい。(エリアを1つマークして下さい)

- ①:心理・パフォーミングアート ②:ビジネス ③:IT ④:食・健康、フード ⑤:アパレルデザイン、ファッション
⑥:医療事務

1	授業の内容が分かりやすかったエリア	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
2	授業の内容に達成感や満足感を感じたエリア	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
3	授業を受けることで資格の獲得につながったエリア	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
4	授業を受けることで就職や就職活動に役立つエリア	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
5	授業を受けることで学習への興味・関心が広がったエリア	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
6	受講したい授業科目が多く開講されているエリア	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
7	主体的に学習に取り組むことができたエリア	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)

II ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について、主に履修した科目からお答え下さい。

- ①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	幅広い人間性と教養を身に着けることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2	将来の人生設計(ライフデザイン)につながった	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	仕事に関するイメージを描き、自分に適した仕事を見つけることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4	エリアの基礎的知識やスキルを身に着けることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	エリアの専門性を深めることができた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

III あなた自身の授業への取り組みについて、お答え下さい。

- ①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	授業には、欠席しないように心がけた	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2	授業中の解らないことや不明な点について、積極的に質問した	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	授業中の居眠りや私語などはせず、授業に集中した	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4	授業中の勉強環境(進度、教室、板書、視聴覚教材)について、積極的に発言した	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	授業の予習・復習および課題には、積極的に取り組んだ	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

IV あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか、お答え下さい。

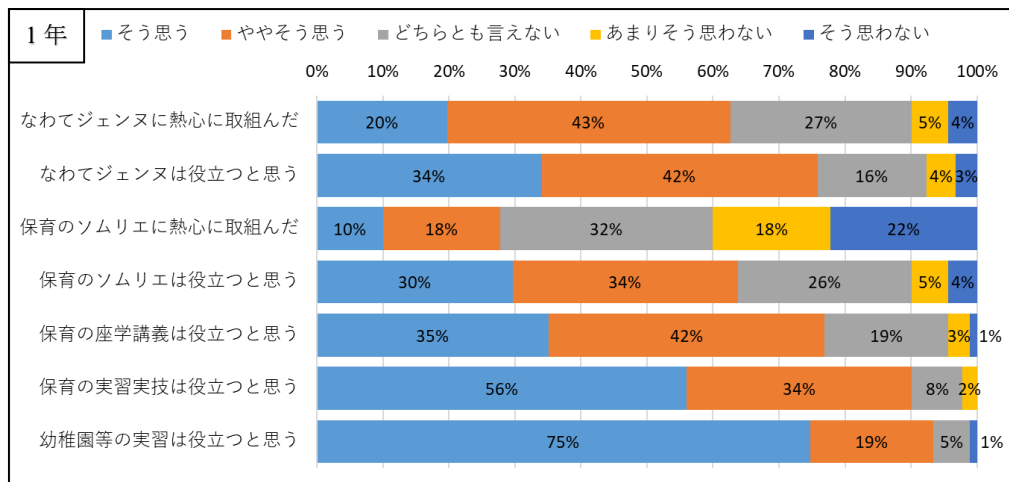
- ①:そう思う ②:ややそう思う ③:どちらともいえない ④:あまりそう思わない ⑤:そう思わない

1	報恩感謝の思いを持つことができましたか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2	教養や知性が身についたと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
3	何事にも自主的、積極的に取り組めるようになったと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4	専門的能力(資格を含む)が身についたと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身につき、人間的にも成長できたと思いますか	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

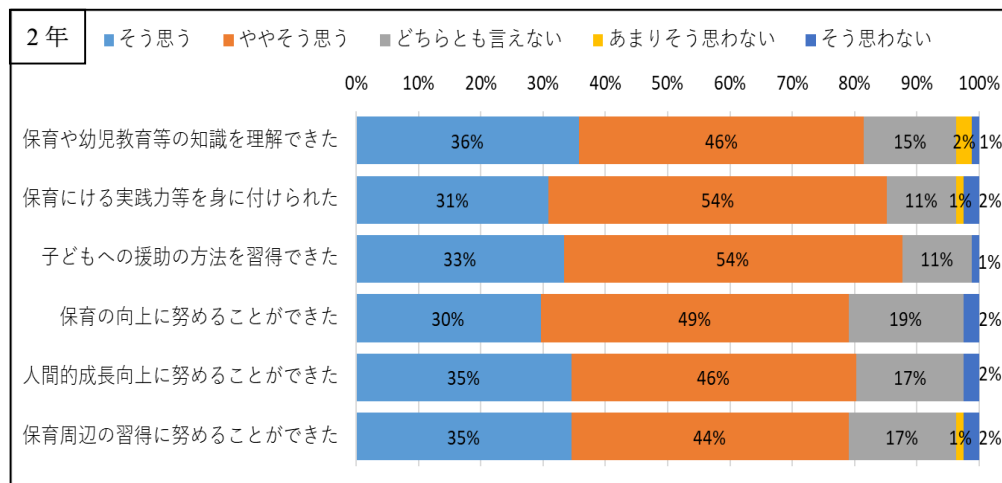
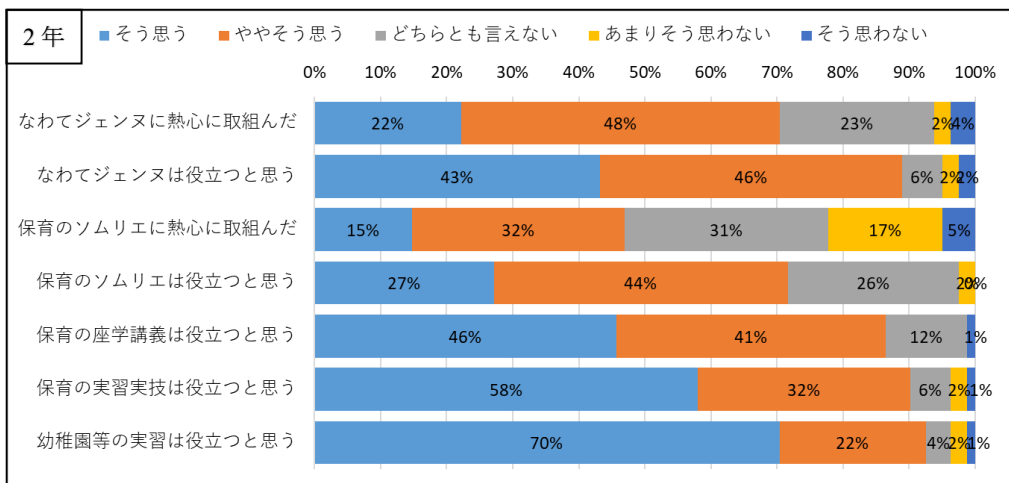
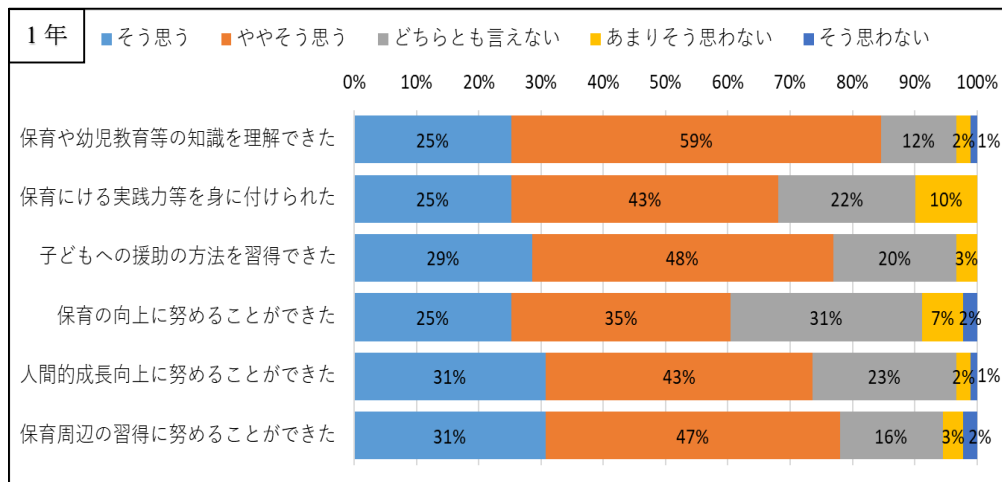


保育学科回収率 1年生 88% 2年生 95%

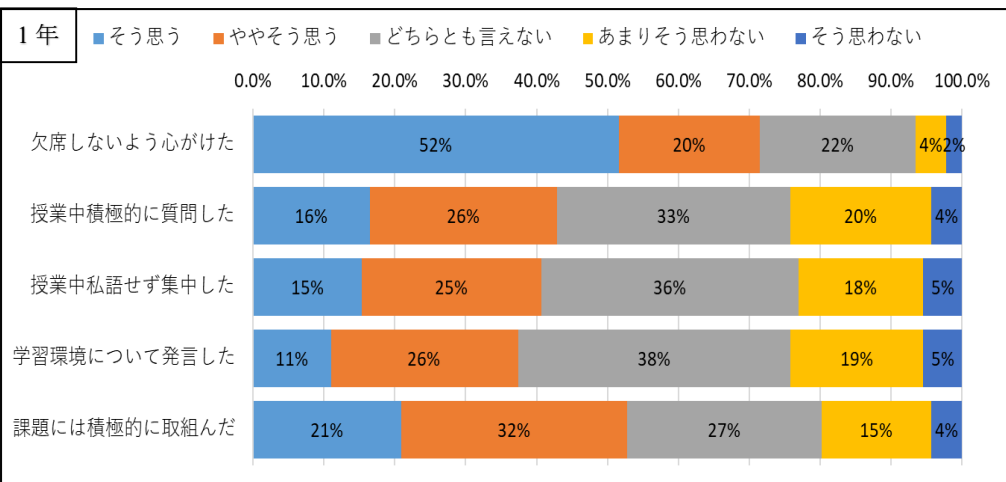
設問項目I 保育学科に関する各項目について



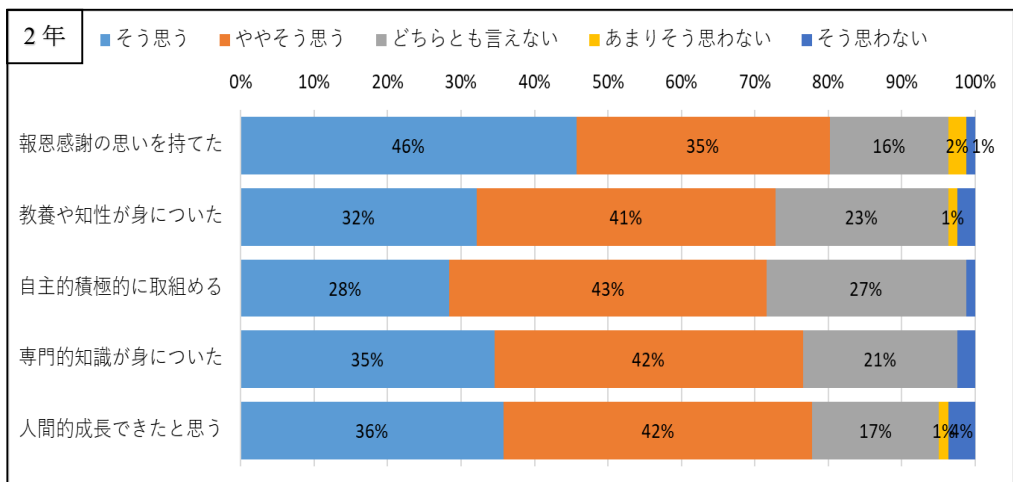
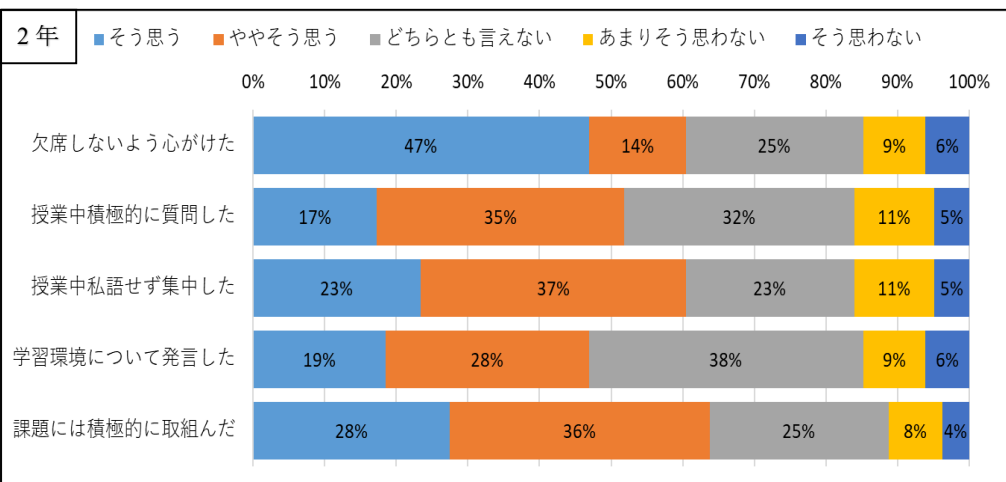
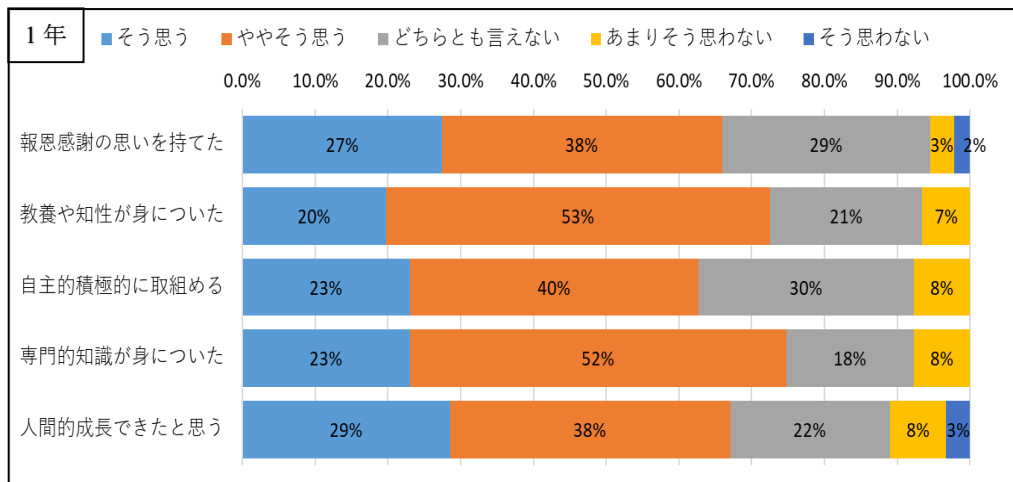
設問項目II 保育総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について



設問項目Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて



設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか

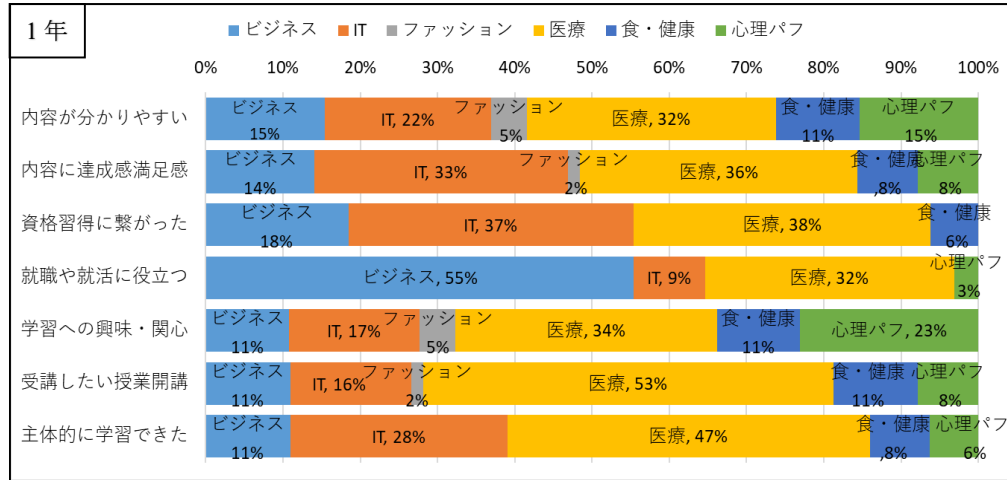


2018 年度授業満足度アンケート調査 ライフデザイン総合学科 集計結果

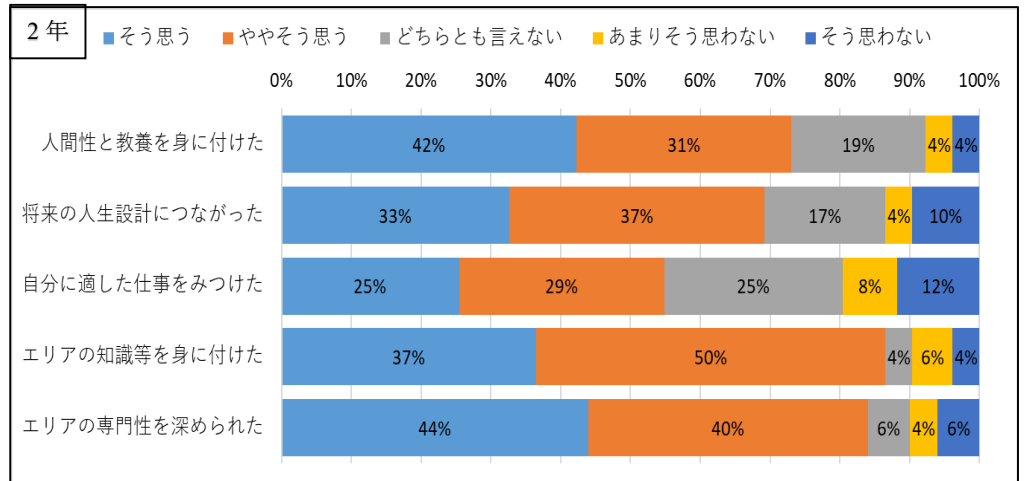
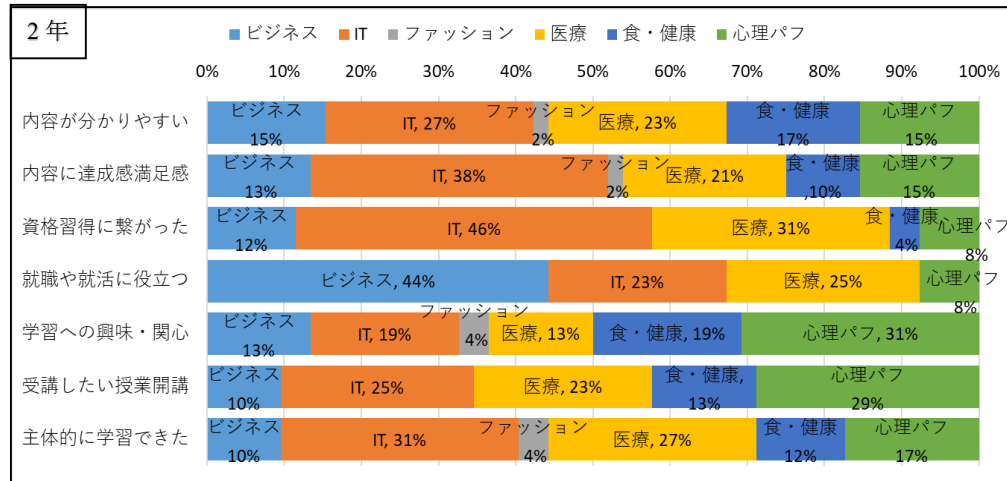
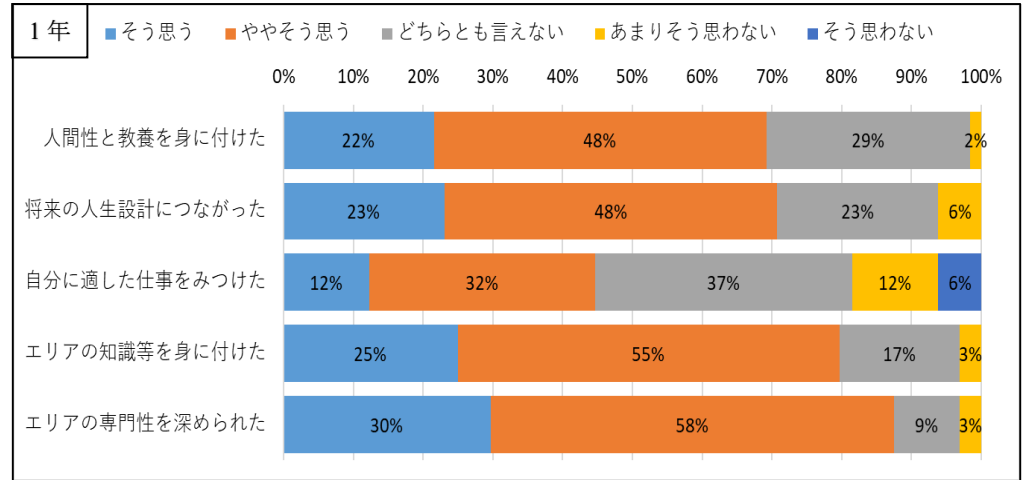
FD委員会

ライフデザイン総合学科回収率 1年生 93% 2年生 67%

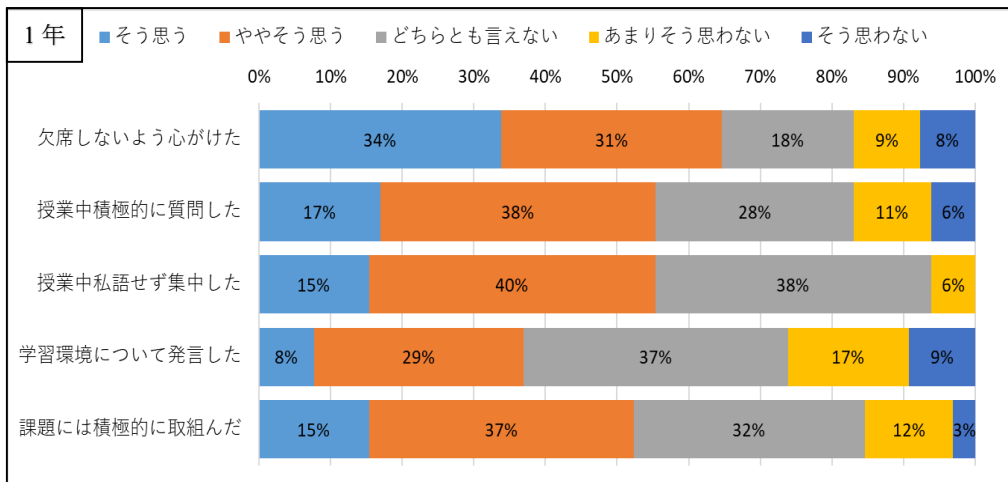
設問項目I ライフデザイン総合学科に関する各項目について
(エリアを1つマーク)



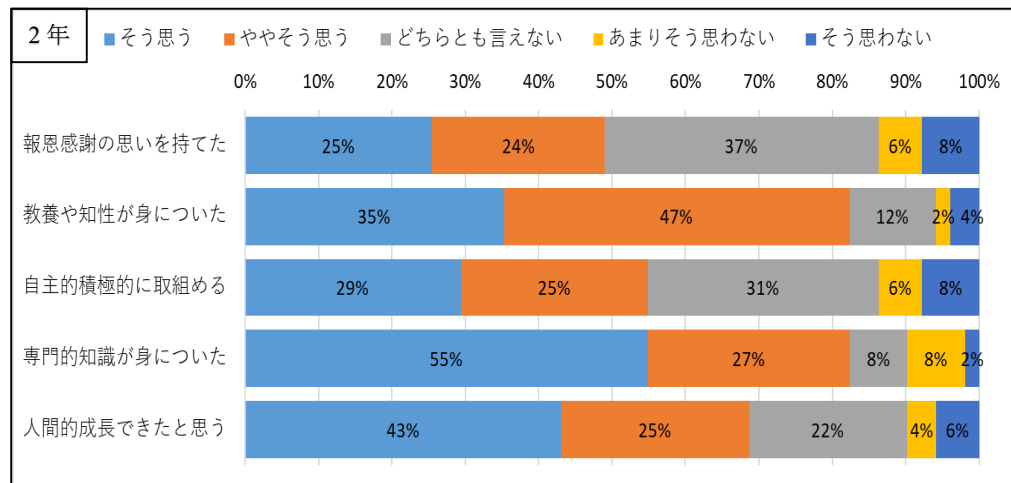
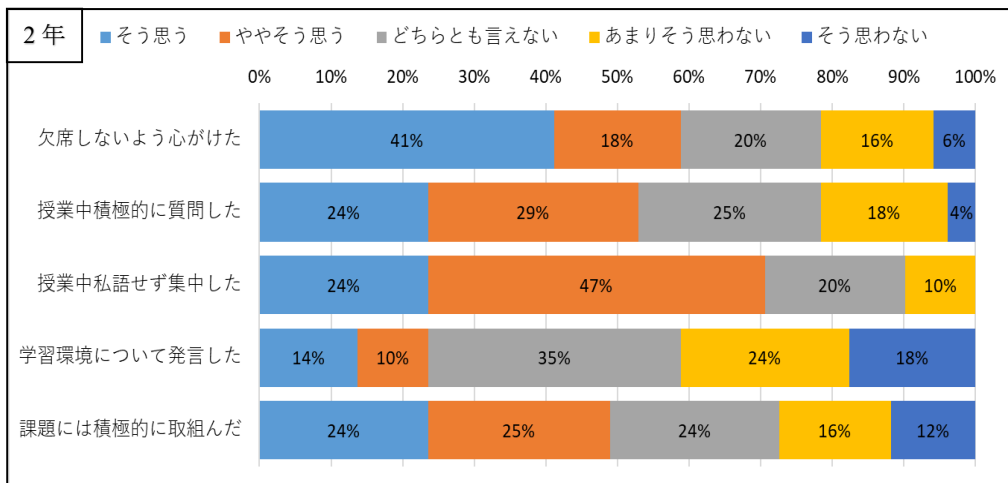
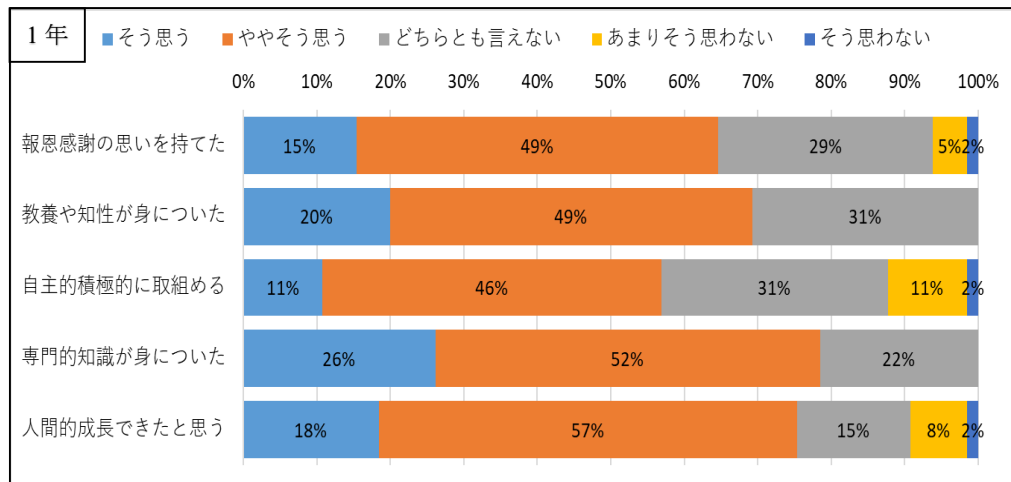
設問項目II ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育上の目的)について



設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて



設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか



2018年度授業満足度アンケート調査結果(各学科長講評)

保育学科長：合田 誠

設問項目Ⅰ 保育学科に関する各項目について

1・2年生ともほぼ同様の傾向を示している。

まず、保育学科の大きな目標として標榜している「なわてジェンヌ」については、「熱心に取り組んだ」及び「役立つと思う」の項目で、7割以上の1・2年生が「そう思う」、「ややそう思う」と回答している。このことは、NJ3に集約している「感謝する。」、「挨拶をする。」、「言葉遣いを考える。」の3項目に関連して、学生はその必要性、身に付けるべきものであることを認識し、理解しているといえる。ただ、1・2年生の3割弱が、熱心に取り組んだかとの設問では「どちらとも言えない」と回答しており、日々意識した声かけや働きかけを教員や学生相互にできるようにさらに高めていきたい。

次に保育ソムリエに関しては、将来保育現場で役立つかはどうか6割以上が必要性を認めている。だが「熱心に取り組んだか」の問いについては1・2年生とも「そう思う」、「ややそう思う」の合計は半数を超えていない。つまり、頭では理解しているが、実行できていない証左となる。次年度以降、実際に取り組める環境や取り組みに重点を置いた指導に取り組みたい。

学習形態に関する設問は、1・2年生とも「実習」に関しては9割以上の学生がその必要性を痛感している。やはり、「習うより慣れろ」の諺通りに、実践に勝るものがないことを学生一人ひとりが体験したといえる。ただ、「座学」に関する「必要性」は1・2年生ともに9割から半数以上とはいえ7割に減少している。実習を充実させるためには、当然「座学」も必要であるのはいうまでもないが、学生にとり、「座学」はやはり苦手であろうことが推察できる

設問項目Ⅱ 保育学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について

これも1・2年生がほぼ同様の傾向にある。「保育や幼児教育等の知識を理解できた」をはじめ、他の5項目すべて、「そう思う」、「ややそう思う」が7割以上占めている。とりわけ1年生が各項目で8割を超えるのが「保育や幼児教育等の知識を理解できた」1項目であるのに関わらず、2年生に関しては4項目が8割を超えている。残りの2項目も「79%」となっており、この差異は全項目のほぼすべてが2年間の学習と実習を積み重ねることによる結果ではないかと考える。

設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて

1・2年生共通にいえることは「欠席しないように心がけた」の項目である。これは1・2年生とも7割以上が、欠席しないように意識して取り組んだことがよく理解できる。その他の項目として、2年生は「積極的な質問」、「私語せずに授業に集中」、「学習環境についての発言」、「課題への取り組み」に関して1年生と比較すれば、前向きに授業に取り組んでいることが窺える。1年生は「積極的に質問」以下の3項目すべてにおいて2年生と比較して10ポイント低下している。このことは、授業中の環境が何らかの影響を与えていると想像できる。例えば、周囲の私語が気になり、授業に集中や質問ができないことに関連しているのではないかと思われる。授業に集中できるような環境作りは教員が保障すべきで、常に念頭におかなければならない。

設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学習成果がどの程度身についたか

1・2年生とも学習成果に関しては各項目高率を示している。とりわけ2年生に関しては全項目の7割以上が「そう思う」、「ややそう思う」を選択している。「報恩感謝」については8割以上の学生が、その思いをもてたと回答していることは、本学の「建学の精神」に関して身に付けてくれたと理解できるのではないかと考える。反面、残念であると同時に今後の課題となるのが1年生の結果に関してである。「報恩感謝」に関しては2年生と比較し、身に付けたと感じている学生が6割と不十分な結果となっている。これは残された1年間をかけて伝えていくべき課題となる。その他、「実習生」や「人間的成長」に関しては、まだまだ相当の伸びしろを残しており、その一因として文科省が推奨する「主体的・対話的で深い学びを考える」が十分に機能していない学習内容になっているともいえるのではないかと考える。

ライフデザイン総合学科長：工藤 真由美**設問項目Ⅰ** ライフデザイン総合学科に関する各項目について(エリアを1つマーク)

内容がわかりやすいエリアに関しては医療が1,2年通して充実している。達成感・満足感があるのは、ITエリアで、できるようになったことが目で見えやすいからだと感じる。特に2年生に上がるにつれてその割合が増加している。スキルは積み重ねることで上がるのがこの結果からも証明されている。また食・健康の開講科目数は2年次に増加するので各項目で2年次の評価が伸びているという特徴がある。就職に役立つは断然ビジネスであり、1,2年ともにダントツである。

しかし、わかりやすさや達成感は思うほど高くない。ビジネスエリアの授業の進め方にひと工夫が求められるのではないかと思う。学習の興味関心、受講したい授業開講では心理学が伸びている。短大のわりに科目数も充実しているということにひかれて入学してきた学生の満足に寄与していると思われる。

設問項目Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身につけるべき能力(教育研究上の目的)について

すべての項目で1,2年生とも50%以上がそう思う、ややそう思うとなっているが、1年生に関して「自分に適した仕事を見つけた」が44%にとどまっている。これは1年生という学年上、仕方がないが、後期にとったアンケートであるから、もうすでに50%を超えてもいいのではとも思う。働きかけを検討したい。

設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて

1,2年生ともに50%以上がそう思う、ややそう思うに解答し、積極的な姿勢を授業に向けていたと回答している。しかし学習環境に関する発言はいずれも30%に満たない。質問の趣旨が理解できないのか、実際に発言しないのかはわからないが、具体的な質問の内容が理解できる文言のほうがいいのではとも思う。

設問項目Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で学習成果がどの程度身についたか

1年生よりも2年生のほうがすべての質問項目で「そう思う」が倍増、またはそれに近い数字の伸びを示しているのは喜ばしいことである。特に報恩感謝、エリアの知識、エリアの専門性は70%~90%近くが、そう思う、ややそう思うになっていて、教育目標が身についたと自己評価(満足)が示されていると思われる。さらに自分に適した仕事が見つけられたの項目で、90%以上になるように働きかけていくのが今後の課題である。